

研究タイトル：

# 日本近代文学史における武田泰淳、熊本の文学



氏名： 道園達也 / MICHIZONO Tatsuya E-mail: mitizono@kumamoto-nct.ac.jp

職名： 准教授 学位： 博士(文学)

所属学会・協会： 日本近代文学会、日本文学協会

キーワード： 日本近代文学史、武田泰淳、熊本の文学

技術相談  
提供可能技術：

## 研究内容：

### 日本近代文学史における武田泰淳

武田泰淳の著作について、初出本文を底本とし、諸刊本の本文との異同を明らかにするとともに、注釈的方法を用いて表現の特質を検討することで、武田泰淳の日本近代文学史における位置づけを試みる。



初出本文 (例)

詩をめぐる風景

【図】 本  
「近代文学」昭和二十四年一月号（近代文学社、一九四九・一）  
「武田泰淳作品集」第二巻（大日本雄弁会講談社、一九五〇・一）  
「才子佳人・月夜都市」（新潮文庫（新潮社）、一九五七・四）  
「新選現代日本文学全集」第二十七巻 武田泰淳集（筑摩書房、一  
「武田泰淳全集」第一巻（筑摩書房、一九七〇・一〇）初版／一  
「武田泰淳中国小説集」第一巻（新潮社、一九七四）↓⑤  
『現代日本文学24』 武田泰淳集（筑摩書房、一九七七）↓

【本文】  
0 0 — 聞き癖は小さき葉を浮べ  
細き葉は軽き花を落す — 杜甫

1 あたらしい主人をむかへた日、草堂はことに美しかった。

【異同】  
1 草堂↓草堂（④⑤）

2 草堂は漢水西岸の、南に陽を受ける丘の上にあつた。丘は陽やけし  
3 だらかに、少しふくれあがつて河岸までつづいてゐた。そのあたりで  
4 激流に舟をあやつつて疲はげた旅人は、ホッと平安な心をとりにもど  
5 として自分のけはしい旅路のなかほどに、このやうな葉園があつたか

【異同】  
2 漢水↓漢水（③④⑤）  
陽↓陽（④⑤）  
旅人↓旅人（③④⑤）

本文異同 (例)

（五頁） ↓ ①  
④  
のやうに、な  
れに、今まで  
に眼をやり、

## 提供可能な設備・機器：

### 名称・型番(メーカー)

名称・型番(メーカー)	